

令和2（2020）年9月19日（土）

鳥取県
米子市

百塚88号墳発掘調査現地説明会 資料

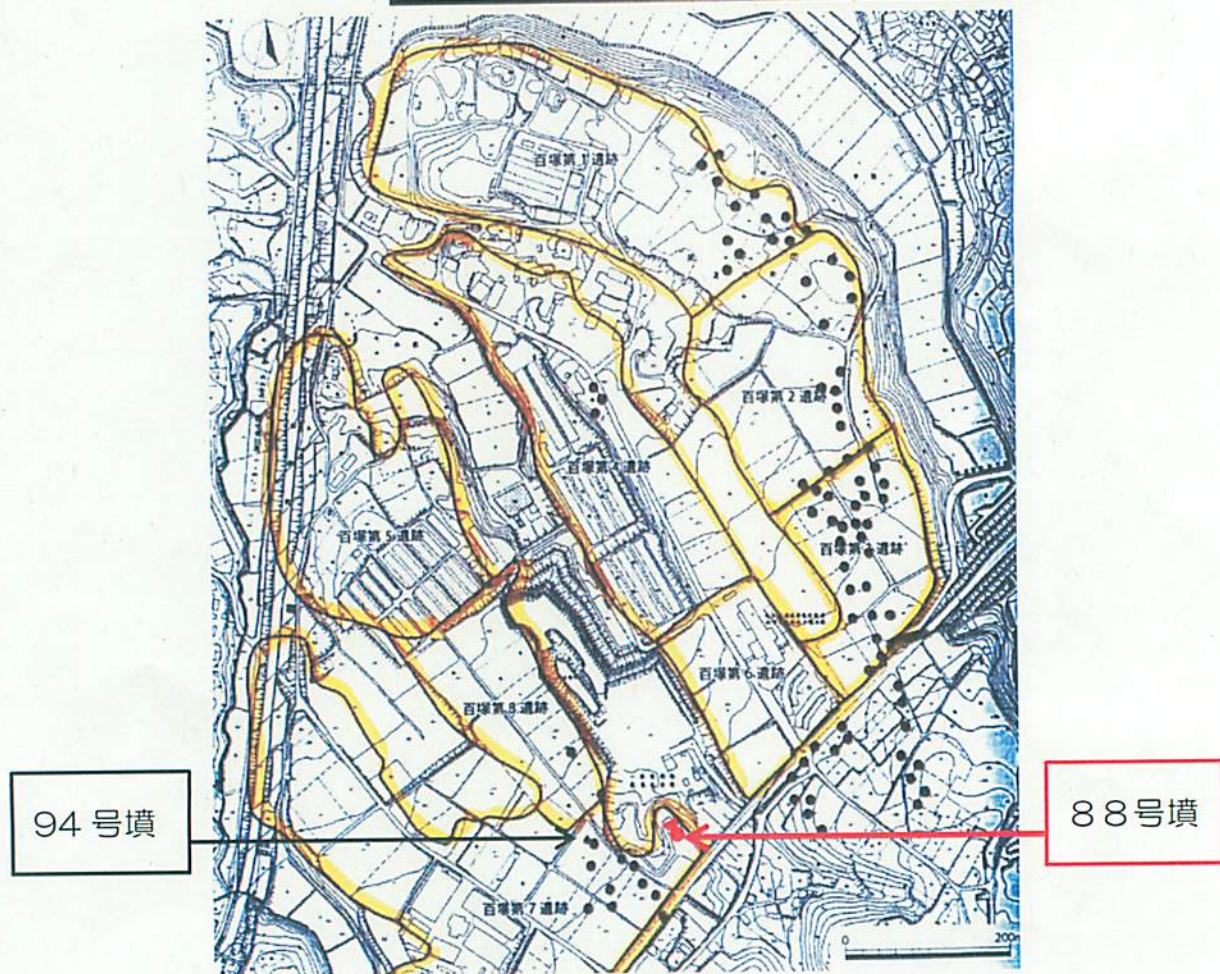
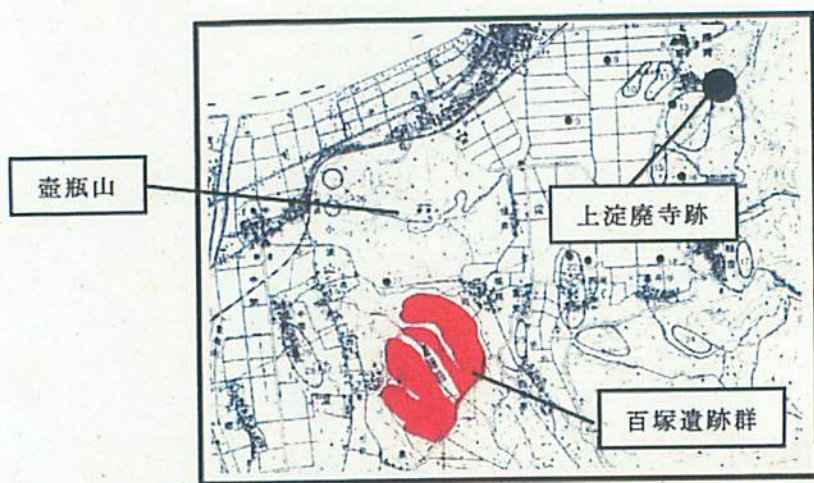
～淀江「百塚原」に眠る前方後円墳～



（一財）米子市文化財団埋蔵文化財調査室

米子市経済部文化観光局文化振興課

- 1 遺跡名 百塚88号墳 (ひやくつか88ごうふん)
- 2 所在地 鳥取県米子市淀江町小波
- 3 調査面積 約1,400㎡
- 4 調査期間 (現地調査) 令和2年6月25日～令和2年10月末 (予定)
- 5 調査原因 淀江産業廃棄物管理型最終処分場計画に係る埋蔵文化財発掘調査
- 6 事業主体 公益財団法人 鳥取県環境管理事業センター
- 7 調査主体 一般財団法人米子市文化財団埋蔵文化財調査室 (☎0859-26-0455)
- 8 調査担当者 高橋 浩樹
(一般財団法人米子市文化財団埋蔵文化財調査室統括調査員)
- 9 調査指導 米子市経済部文化観光局文化振興課



百塚遺跡群位置図

1. 百塚遺跡群の概要

百塚88号墳を含む百塚遺跡群は、大山北西麓の米子市淀江町小波に所在します。米子平野と淀江平野を隔てる壺瓶山南麓に位置し、通称「百塚原」丘陵に広がっています。百塚遺跡群は、集落跡と古墳群からなっており、集落は、弥生時代後期から古墳時代終末期まで継続して営まれています。竪穴住居建物跡は300棟以上が確認されています。古墳群は、「百塚」という字の如く、これまでに約120基余りの古墳が確認されていますが、古墳の墳丘は田畑の耕作や土取り等によって削られており、旧状を留めていないものが多く、正確な数は不明です。

百塚古墳群では、これまでに、約80基の古墳の発掘調査が行われています。直径10m～16m程度の円墳が多く、前方後円墳は、今回、発掘調査を実施した88号墳（全長26m）と昭和63年（1988年）に発掘調査が実施された94号墳（全長33.5m）の2基しか現在のところ確認されていません。また、方墳も少なく、数基しか確認されていません。埋葬施設の多くは盗掘されていますが、箱式石棺が大半を占め、横穴式石室は、前方後円墳の88号墳及び94号墳、円墳の81号墳、96号墳で確認されているのみです。副葬品については、須恵器、土師器、玉類、刀子（小刀）、鉄鏃（鉄製の矢じり）、馬具、籠手（こて）などの鉄製品が出土しています。百塚古墳群の築造年代は、古墳時代中期後半（5世紀後半）から終末期（7世紀前半）と考えられています。

2. 調査の成果

今回の調査は、前方後円墳である百塚88号墳とその周辺を対象として実施し、百塚88号墳の形態や埋葬施設を確認しました。以下に調査の成果について報告します。

（1）概要

百塚88号墳は、南東から北西方向へのびる標高約40m前後の尾根上に位置し、尾根の主軸に沿うように築かれています。古墳の墳丘が残存しており、従来から前方後円墳として認識されていましたが、盗掘や土取り等により墳丘は削られ、前方部の南西側に位置する横穴式石室は、天井石が失われ、玄室の左右側壁の石の上部が露出していました。

（2）墳丘の規模

現存する規模は、全長26m、前方部は、長さ12m、高さ約2m、後円部は、径14m、高さ約3mを測ります。

（3）埋葬施設

前方部には、南西側に開口する横穴式石室が1基あり、後円部の頂部中央には組合式箱式石棺が1基あります。

①埋葬施設

・第1埋葬施設（横穴式石室）

残存長3.35m、玄室長2.25m、玄室の奥壁幅1.8m、玄室の前壁幅1.5m、玄室残存高1.0m、羨道残存長0.85m、羨道幅1.6m

南西側に開口する切石造の横穴式石室で、玄室は、盗掘などを受けて天井石を含

む上半部は失われています。平面形態は**梯形**を呈し、奥壁に1枚、左右側壁に各2枚の板石を立てています。床面には玉砂利と人頭大の扁平な円礫を敷き詰めていたと考えられます。玄室の入口である玄門は幅0.6mで、玄門部の床面には凸形に加工した**框石**（かまちいし）を据えており、羨道側に高さ5cmの段差を作り付け、閉塞石を受ける構造となっています。

・ **第2埋葬施設（組合式箱式石棺か）** 現在調査中

長さ2.2m、幅1.8m、大型化した組合式箱式石棺と考えられ、現在調査中のため、構造等は現時点では不明です。

(4) **周溝**

南西側は土取り等で削られていますが、前方部の北東から北西にかけてと後円部の南東側には周溝があります。

(5) **土器溜り（祭祀場）**

前方部と後円部が接する墳丘上で高坏等の須恵器が集中して出土し、ミニチュア土器や装飾須恵器片も出土していることから、この場所で祭祀を執り行ったと考えられます。

(6) **築造時期**

百塚88号墳の築造時期は、出土遺物から6世紀後半と考えられます。

(7) **出土遺物**

須恵器、土師器、ミニチュア土器、耳環、鉄製品などが出土しています。

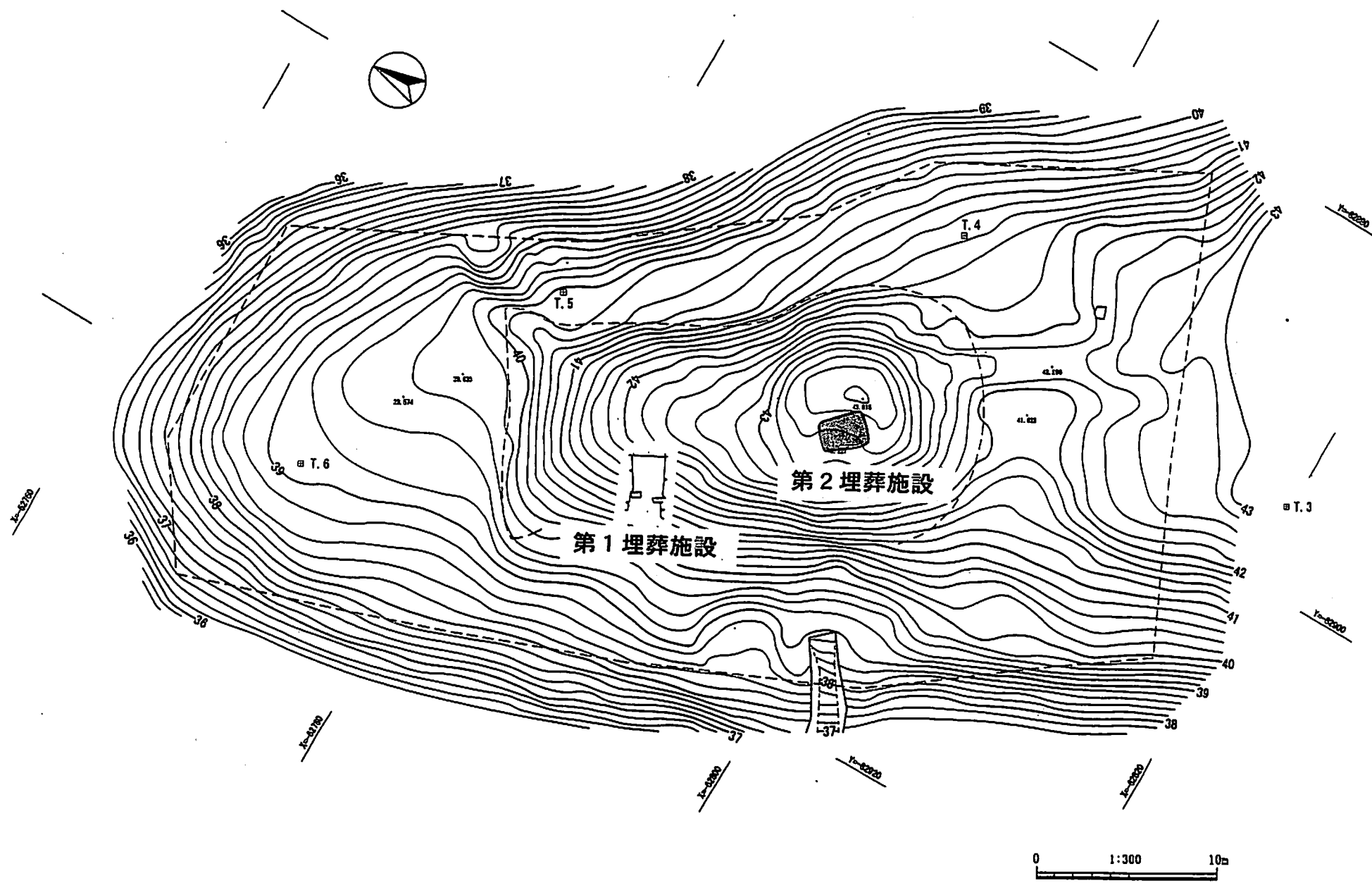
(8) **まとめ**

・ 百塚古墳群は、これまでに約120基の古墳が確認されていますが、そのうち、前方後円墳は北西隣の尾根に存在した百塚94号墳（全長33.5m、消滅）と今回の調査対象の88号墳の2基が確認されているのみです。両古墳は、築造時期がほぼ同じ6世紀後半と推定され、当地域を統治した首長の古墳と考えられます。

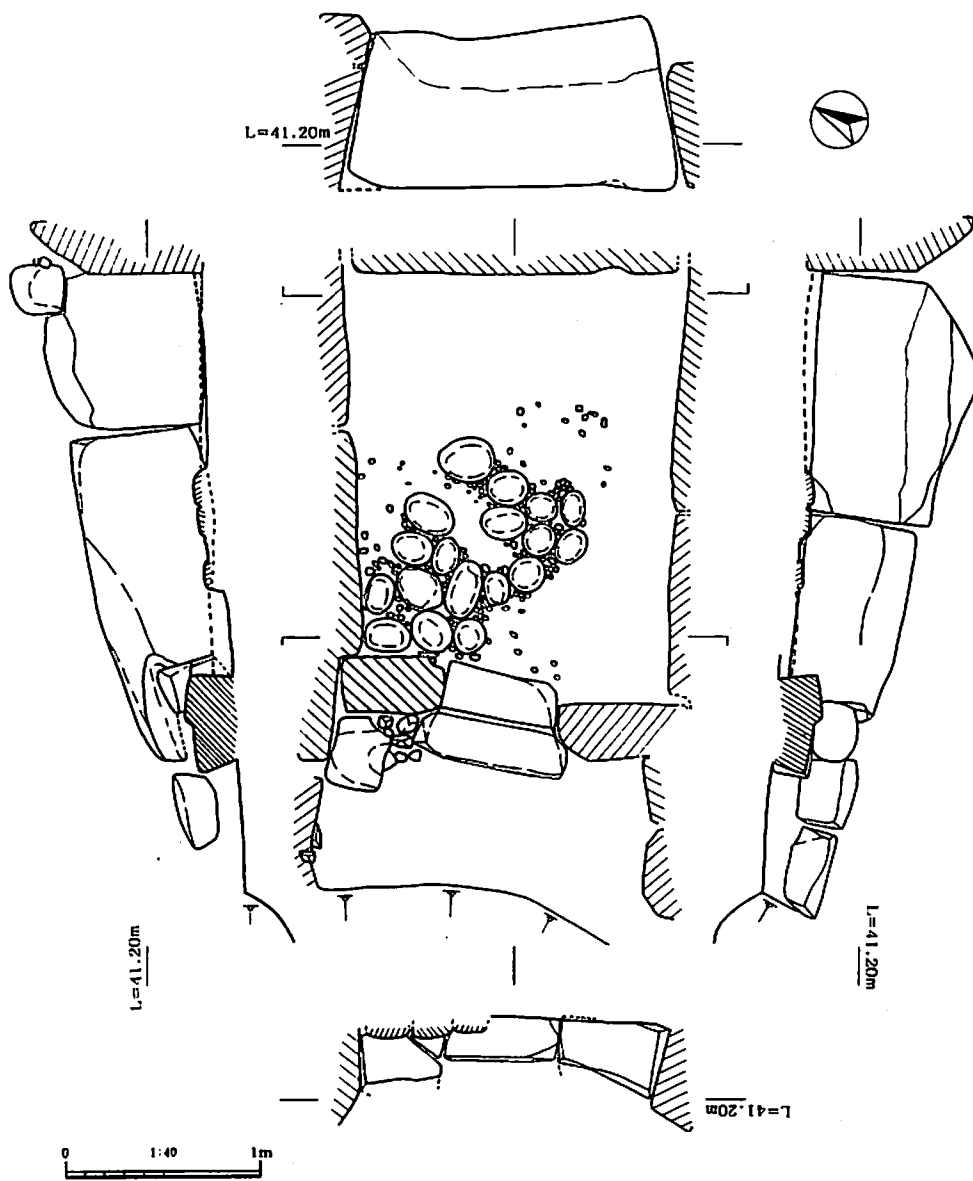
・ 横穴式石室は、切石造りの石室で、このような石室は、大山北西麓に分布する石棺式石室、切石造石室にもみられます。また、当石室の石材は風化が著しいですが、石材の加工度は高く、壁石は長方形に加工され、**框石**（かまちいし）を据え付けるにあたって、壁石や**框石**にL字形の削り込みを設けて組み合わせています。

・ 後円部の埋葬施設は、大型化した石棺で、石州府古墳群（米子市）、日ノ岡古墳（南部町）などに類例があります。

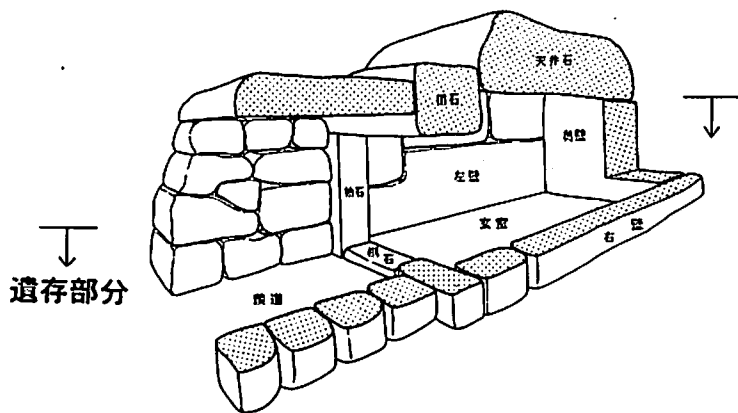
・ 出土遺物で特筆するものとして、装飾須恵器があります。装飾付壺胴部の**鏝部**に羽根を広げた鳥形小像で、野口1号墳（倉吉市）出土の国重要文化財に指定されている装飾付壺・器台型土器に類例があります。



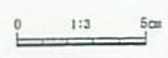
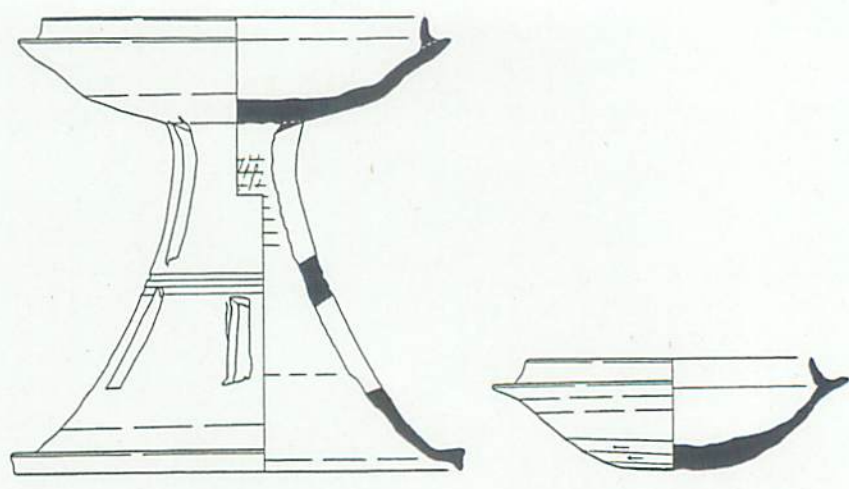
百塚88号墳全体図 (調査中：等高線は調査前の墳丘測量図)



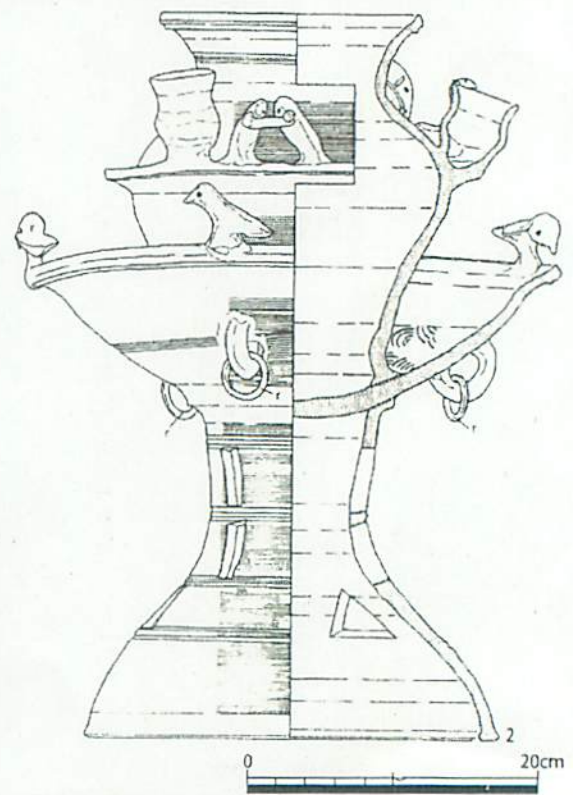
第1埋葬施設（横穴式石室）実測図



横穴式石室各部の名称（出雲考古学研究会 1987『石棺式石室の研究』より転載）



8 8号墳墳頂部出土遺物



参考資料 (野口 1号墳出土裝飾須恵器) 『新鳥取県史』考古 2 古墳時代編より転載一部改変



百塚88号墳全景（西より）



第1埋葬施設



第2埋葬施設（調査中）